平成24. 10. 23

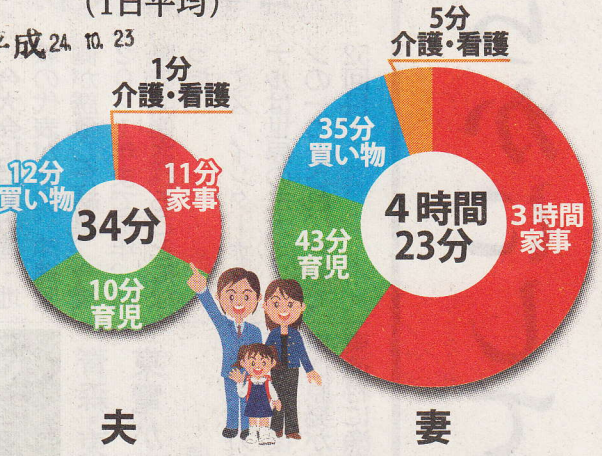
鳥取の男性 少ない育児時間

イクメンほど遠く

鳥取県内の子育て世帯では、夫と妻の間で家事や育児に費やす時間に大きな差があることが、総務省がまとめた社会生活基本調査結果で分かった。中でも、共働き世帯の家事時間は両者の間で8倍以上の開きがあり、夫が育児に関わる時間も縮小。県がプロジェクトを立ち上げて促進する〝イクメン〟にはほど遠い結果となった。一方、休養やくつろぎに費やす時間は男性のほうが多いという結果もあり、家事負担が依然として女性に偏っている現状が浮き彫りになった。

調査は総務省が国民らかにするため5年ごの社会生活の実態を明とに実施。昨年の調査

■共働き子育て世帯の家事関連時間（1日平均）



総務省調べ 家事負担は妻にズシリ

内容が9月に公表され、県統計課が県内の状況をまとめた。

このうち、子どもがいる共働き世帯の生活時間の調査では、夫が1日のうち平均34分を家事や育児などに費やすのに対し、妻は4時間23分と多くの時間を割いている結果が出た。妻が専業主婦の場合も、夫が59分に対し妻は8時間19分と差が出た。

男性の育児参加の必要性が叫ばれて久しいが、共働き世帯の夫は1日にわずか10分しか育児を行っておらず、前回調査より1分減少。県は「とっとりイクメンプロジェクト」と銘打ち、講演会をはじめ、さまざまな方法で父親の育児参加の働き掛けを行っているが、取り組みをさらに進める必要がありそうだ。一方、専業主婦の夫は育児時間が16分増えた。

テレビや新聞を見たり休養したりする時間は、全世代の平均で男性が4時間9分、女性は3時間59分。20代、30代の働き盛りの世代ほど男女差が広がる傾向がある。

県男女共同参画推進課の小林加代子課長は「夫が家事をしようという意識は高まっている」としながらも、現実的には男性の長時間労働が改善されないことが女性への負担を増幅させていると指摘。「育児や介護を応援する企業を増やすとともに、男性も仕事と生活の調和を図ることが重要。最近は〝家事メン〟という言葉もあるが、夫と妻が一緒に家事にかかわることで、夫婦力を高めていってほしい」と話している。